

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室 中桐正夫

＊ 初代国立天文台長古在由秀氏が三鷹市名誉市民に！

アーカイブ室の現在の活動は、天文学に関する歴史的に貴重な観測装置、測定装置、写真乾板、映像記録、その他あらゆる資料の収蔵を進めているので、概して古いものの収集、収蔵、復元、展示が主になっている。今回の報告は、今まさに進行中、決まったばかりのニュースのアーカイブである。それは「最後の東京天文台長、初代国立天文台長、日本人初の国際天文連合会長を歴任した古在由秀先生が三鷹市名誉市民に推挙されたニュース」が掲載された三鷹市の広報紙(写真1)のアーカイブである。



毎月第1・第3日曜日発行
発行:三鷹市
編集:秘書広報課
〒181-8555 三鷹市野崎1-1-1
市役所代表電話
☎0422-45-1151(代)
ホームページ
http://www.city.mitaka.tokyo.jp/
携帯サイト
http://www.city.mitaka.tokyo.jp/i/

今号の紙面から
特定健康診査と特定保健指導.....3面
65歳以上の方は介護保険料が軽減される場合があります.....3面
自転車安全講習会.....4面
住宅バリアフリー改修助成制度.....4面
市からのお知らせ.....11面から



三鷹市名誉市民に

古在由秀さん (初代国立天文台長)

宮崎駿さん (三鷹市立アニメーション美術館 館主)

市では、国際的な天文学者であり、国立天文台の初代台長を務めた古在由秀さんと、世界的に活躍するアニメーション映画監督で、三鷹市立アニメーション美術館三鷹の森ジブリ美術館の館主である宮崎駿さんのお二人を、三鷹市名誉市民に推挙することについて、三鷹市名誉市民条例第3条の規定により議会の同意を求める議案を、6月22日の市議会本会議に提出し、同日、満場一致で同意を得て、決定しました。
名譽市民の誕生は、故・武者小路実篤氏(昭和27年)、故・山本有三氏(昭和33年)、故・鈴木平三郎氏(昭和55年)、福王寺法林氏(平成17年)に続き、5人目、6人目となり、古在さん、宮崎さんのお二人には、今年11月3日祝に開催される三鷹市市制施行60周年記念式典で、名譽市民証・市民章が贈呈されます。
問 秘書広報課秘書係 ☎内線2011



古在由秀さんは、昭和3年東京府生まれ。昭和26年に東京大学理学部天文学科を卒業後、米国立スミソニアン天文台、ハーバード大学天文台に研究員を経て、昭和41年東京大学助教授、昭和56年には東京天文台長に就任され、昭和63年に同天文台が改組により自然科学機構大学共同利用機関国立天文台となったことから初代国立天文台長となられ、平成6年3月まで在任されました。天体力学に関する論文を数多く手付け、米国立海洋学研究所に及ぼす月・太陽の影響に関する論文では、当時のNASA米国防航空宇宙局の計算結果に影響を与えようとした。人工衛星の軌道計算法を確立しました。また、小惑星の軌道に関する「古在機構」の発見者としても知られるほか、昭和63年から平成3年までは「国際天文学連合」という国際的な天文学の会長を、日本人として初めて務めるなど、天文学の発展に大いに貢献され、平成21年11月にはこうした業績を讃え文化功労者として表彰されました。現在も、三鷹ネットワーク大学の講座で講師として活躍され、天文を身近にするために活躍です。



宮崎駿さんは、昭和16年東京府生まれ。昭和38年に学習院大学政治経済学部を卒業後、アニメーション映画の世界に入り、「アルプスの少女ハイジ」(昭和49年)などのTVシリーズや、「ルパン三世 カリオカストロの城」(昭和54年)、「風の谷のナウシカ」(昭和59年)などの映画作品を手付け、昭和60年には、スタジオジブリの設立に参加。その後「天空の城ラピュタ」(昭和61年)、「となりのトトロ」(昭和63年)、「もののけ姫」(平成9年)、「千と千尋の神隠し」(平成13年)、「ハウルの動く城」(平成16年)、「崖の上のポニョ」(平成20年)などの映画作品を発表。「千と千尋の神隠し」では第32回ベルリン国際映画祭で最高賞を受賞し、米アカデミー賞やベネチア国際映画祭などの国際的な映画祭で高い評価を受けており、個人としても第92回ベネチア国際映画祭で金獅子賞を受賞されています。平成13年には、企画・プロデュースを手付けた「三鷹市立アニメーション美術館三鷹の森ジブリ美術館」の館主に就任し、現在まで務められています。三鷹のキャラクターであるポッキーホッキーの原作者でもあります。

新しい名誉市民の誕生にあたって

このたび、市制施行60周年を記念して、名誉市民として古在由秀さんと宮崎駿さんを推挙し、決定いたしました。宇宙に向けて広がる大切な研究施設である国立天文台を拠点に、国際的に活躍された古在さん。独創的なアニメーション映画作品「三鷹の森ジブリ美術館」を通して、常に新しい文化のあり方を発信し続ける宮崎さん。三鷹市ゆかりのお二人の活躍は、三鷹市にとって大きな誇りです。私たちが、これからは、三鷹市の自然と文化、歴史を大切に、参加型活動のまちづくりを進めつつ、市民として誇りに思える地域社会を築いていくために、お二人の名誉市民の存在は、心強い大きな力です。
三鷹市長 清原慶子

写真1 古在由秀先生を名誉市民に推挙を伝える三鷹市広報「みたか」

古在先生は、古在・幣原という 2 つの名門家系の血を引いており、古在由正（古在由直（農芸化学者）・豊子（清水紫琴及び古在紫琴の筆名の作家）夫妻の長男）・澄江（東洋史学者・幣原坦の次女）夫妻の長男。昭和 3 年(1928 年)4 月 1 日東京府（現・東京都）生まれ。マルクス主義哲学者の古在由重（由直の次男）は父方の叔父。外交官出身の政治家、第 44 代内閣総理大臣・第 40 代衆議院議長の幣原喜重郎（坦の弟）は母方の大叔父。また、父方の従弟に千葉大学学長の古在豊樹がいる（豊樹は由重の息子）。東京都立石神井中学校、第一高等学校を経て東京大学に進んだ。古在先生の略歴は以下のとおりである。

1951 年：東京大学理学部天文学科を卒業。大学時代は萩原雄祐の下で天体力学を学ぶ。

1952 年：東京大学東京天文台助手。

1958 年：理学博士、スミソニアン天体物理観測所及びハーバード大学天文台の客員研究員。

1961 年：この年から『理科年表』編集に携わる。

1963 年：東京大学東京天文台助教授。朝日賞を受賞。

1965 年：東京天文台人工衛星国内計算施設長。

1966 年：東京大学東京天文台教授。

1973 年：東京天文台堂平観測所長。

1979 年 6 月 11 日：土星衛星、人工衛星及び小惑星の運動の研究により日本学士院賞及び恩賜賞を受賞。

1980 年：日本学士院会員。

1981 年：東京大学東京天文台長。

1988 年 8 月：日本人で初めて国際天文学連合（IAU）会長（～1991 年）。

1994 年：国立天文台長を辞任（東京天文台は 1988 年に国立天文台に改組・転換）。

1997 年：群馬県立ぐんま天文台の台長に就任。

2002 年：秋の叙勲で勲二等瑞宝章。

2009 年：文化功労者。

ここで、古在先生と親しくさせていただき、一緒に野球などに興じた筆者として 2 つばかりエピソードを書いておきたい。一つは野球である。東京天文台野球部の一員であった古在先生は、主にキャッチャーをされた。キャッチャーは怖がってやりたがらないポジションであるが、野球が必ずしもうまくない古在先生は野球に参加するために進んでキャッチャーをやったのだろう。そしてもう一つは、電子計算機のなかった頃、天体力学で計算が必要な先生は、タイガー計算機という器械式の計算機を駆使したが、その計算機のハンドルを回すスピードはだれにも負けないと自慢しておられた。